

## いのちは恩寵のうちにある～まえがき～ 曙光より

姫路あけぼの教会 廣田守男

「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」  
(ローマ人への手紙 8章 28節)

主の御名を崇め賛美いたします。いつも小さな者を覚えてお祈り戴き感謝します。冒頭のみ言葉は、私が東京聖書学校卒業を記念し、当時の小原十三司校長（淀橋教会牧師）から署名して戴いたみ言葉です。小原牧師が翌年一月に召天なさいましたので、小原先生が82年経験してこられた人生の縮図としてのみ言葉で、感銘深く思っております。

今年7月に開催した全国キリスト教障害者団体協議会（キ障協）の総会・研修会での親睦会の席上、下記の挨拶を述べました。「今年10月2日に透析治療を開始して満40年を迎えます。もし透析を受けていなければ皆様との交わりに加わることはなかつたのではと思います。兵庫共励会の皆様だけでなく、キ障協の皆様ともお目にかかりなかつたのではと思う時、透析治療を受けるようになったことを感謝しています。当初は10年か15年の寿命と宣告されていたので、残された“いのち”をどう生きるかを考え、神様の導きを求めていた時、現在地での開拓伝道を示され、広島県呉市から導かれて来年11月には40年を迎えることです。これも透析を始めて与えられた恵みであると覚え感謝している次第です。」

この透析人生40年を感謝して祈り労苦を共にして下さった皆様に感謝の意を表わしたいと思い、小書を発行いたしました。内容は主の2021年～24年の礼拝にて日本基督教団聖書日課に基づいて週報に掲載した説教要旨です。読み返せば内容的に拙文で重複もあり、唯我独尊の嫌いがあり恥ずかしい限りで、読む方々には失礼かとも思っています。

尚、仲森文穏先生には当教会の開拓当初からお世話になり、隠退された今日、当教会にて定期的にメッセージを取り次いで戴き心から感謝し、他の方々にも感謝しております。かつて当教会に在籍された弓岡章秀兄が説教を整えて下さったことも併せ感謝致しております

最後に今年の元旦礼拝の説教を認めましたが、小生の人生を振り返れば罪深き生涯であったことを覚えます。そのような者を「神様のあわれみ」と「主の十字架の贖い」と「御靈のとりなし」により現在あることを覚え感謝しております。小心者の未熟な者が、悔い改めと信仰に導かれ、神様の愛の中に生かされ、神様に仕え、人に仕える者とされている恵みを感謝しております。更に「御子のかたちと同じ姿にあらか

じめ定められ」その「栄光に与る者とされる」という希望をもって、「主の栄光を鏡に反映させられながら、栄光から栄光へと主と同じ姿に変えられる」との約束を信じ、「御靈の実」を結ぶ者へと変えられ、「いつも喜んでいなさい、絶えず祈りなさい。すべてのことを感謝する」生涯を歩ませて戴きたいと祈り願っております。

末筆ながら皆様の上に益々神様の豊かな祝福をお祈り申し上げます。続いて小さい者のためにもご加榜下さいますようよろしくお願ひ申し上げます。

主の2025年 秋分の日 記す